

# はじめて学ぶ海洋学

## 講義の目的と成績評価の方法

2015年度 教養課程：地球環境科学の最前線F  
担当： 熊本大学自然科学研究科  
横瀬久芳（海洋火山学）  
[yokose@sci.kumamoto-u.ac.jp](mailto:yokose@sci.kumamoto-u.ac.jp)

2015年9月25日改訂

# 講義の“目的”と“基本ルール”

- ・ 海洋学が皆さんにとって必要な理由  
(講義の目的)
- ・ ルールに従って、受講すれば単位がもらえる。  
(基本ルール：単位の厳格化・公正化)

# “はじめて学ぶ海洋学”の目的



“海洋学”とは、海そのもののみならず、海にかかわる諸現象を理解する学問である。そのため、海にかかわる独立した分野のみを勉強しただけでは、問題の解決にならない。

だから、海洋～～学と名の付く学問は、本当の“海洋学”とは違う。“海洋学”は、本来総合科学なのです。

四方を海に囲まれた島国日本。でも．．．．

あなたは、海の何を知っていると言えますか？

# 誰もが“海洋学”の初心者

- どうして私達は、海の事をあまり知らないのでしょうか？
  - 1 : 教科書（小・中・高）で取り上げられていないから。
  - 2 : 教えることのできる経験者がいない（教員が海の事を知らない）。
  - 3 : 海を知らなくても社会生活上不便を感じない。  
（海自体を生活の舞台としている人は稀）

でも、現在は、私達の社会生活から“海の恩恵”を切り離して考えることができないのは自明の事となってきました。

資源（食糧資源、鉱物資源、エネルギー資源）

地球環境の維持

人類存続に向けた、生態系の維持

人類史と海のかかわり

防災（津波、高潮、高波、台風）

# 講義担当者の考え

- より良い地球を維持するためには、海に関する啓蒙活動が重要
- 本講義を受講し、海に関する様々なトピックに触れ、地球の将来を考えるきっかけになればと願う。
- 基本的に誰もが初心者。小学一年生に微分積分の理解度を問うても、むなしいだけ。それよりも、基本的な“海のしくみ”や“人間生活との係わり”を意識させるのが先決。

はじめて学ぶ海洋学の目的は、

“**海の理解者**”

を増やす事！

# 敷居を低くした講義スタイルの問題点

誰もが参加できるオープンな講義は、講義事態の秩序が損なわれる危険性を伴っている。

無秩序な状況下における講義は、学習効果が期待できず、結果として海の理解者も増えない。

そこで

“海の理解者”を増やすという目的を達成するために  
本講義では、一定のルールを設けることとした。



本講義は、受講態度に

## ルール

が存在するところが他の一般的な講義  
と違うところですよ！！

ルールを厳格に適用することで  
まじめな受講生の保護に努める。

# 本講義の基本ルール:出席重視

☆ より多くの話を聞く（出席してちゃんと講義を受ける）事が重要である。受講者数が多いので、受講状況を以下のようなルールを設けて、把握し、円滑な講義を心がけるものとした。

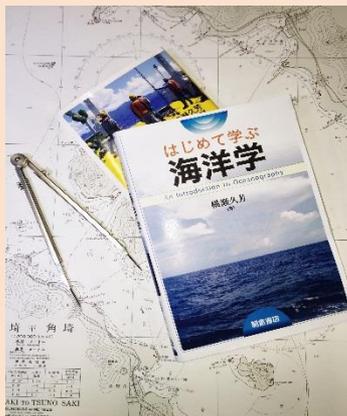
- 学則にもあるように、出席が2/3に満たないものは自動的に不可。
- 講義開始後20分以降の入室は認めない。
- 出席票代わりの小テストの成績が50点に達しない場合は欠席扱いとなる。
- 周囲に迷惑をかける行為あるいは講義の妨害をした学生は、受講を辞退してもらう。本講義は、話を聞くことが重要だから、他人の迷惑となる行為は許されない。海洋環境の悪化は、正に迷惑行為の積み重だから、講義の趣旨上、他の受講生の学習の妨げとなる行為は受講辞退を勧告する。
- 小テストをこなす自信のある学生は、講義中に睡眠をとることができる。つまり、講義中眠っていても注意はしない。但し、周囲の迷惑になった場合は、退席を勧告する事がある。

つまり、講義の行われている部屋にいる（居たふり）だけでは、出席条件を満たすことが出来ない仕組みとなっている。そんな腹積もりの受講生も教科書代が無駄になる前に、選択講義を変更する事を薦める

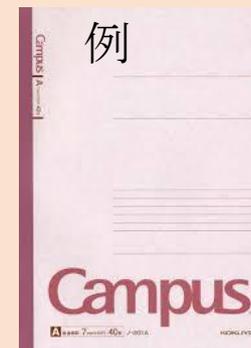
# 本講義を受講する上で最低限必要なもの



講義をまじめに聞く態度  
(出席が重視される)



教科書:朝倉書店  
『はじめて学ぶ海洋学』



例  
大学ノート  
メーカーは問わないがA4の  
冊子体が好ましい

そして

**地球を愛する心**

この講義は選択科目であるから、上記三点を準備できない学生は他の講義を受講して下さい。さらに、上記の要件を準備できたからと言って、単位が自動的に取得できるわけではありません。本講義では成績を厳格な方法で割り出しています。基準に満たない受講生は当然不可となります。

# “はじめて学ぶ海洋学”の学習範囲

## 1. 毎週行う講義内容(詳細は、シラバスの参考図書を参照)

講義で使用するパワーポイントは、インターネット上にPDFとして  
UPLOADされているので、予習・復習・講義中に適宜活用できる。

## 2. 教科書:『はじめて学ぶ海洋学』朝倉書店

大学生として読書習慣をつける意味を含めて、新書(税別:1800円)  
を教科書として使う。下記小テストの出題範囲となるので早めに購入  
し、毎時間持参する事。なお、期末試験の持ち込み可能資料ともなる。

## 3. 返却された小テスト(期末試験の持ち込み可能資料となる。)

テクニカルタームや概念を習得しよう。

# 予習や復習は？

- 予習や復習は、HPに公開されている資料を前もって確認しておくこと。ビューアーが必要な人は、各自プリントアウトして持参する。
- 復習は、ノート等に三択問題のタームを書き取り、HPでPDFを再確認しておく。
- 教科書『はじめて学ぶ海洋学』を熟読しておく
- 疑問が生じたら、恥ずかしがらずに質問する（小テストの感想欄を活用しよう）。

# 毎回行う出席票代わりの小テストの様式

小テストの基本形は問1～3（字数制限付きの感想文のみの場合もある）

問1. 三択式問題（配点 **40点**：不正解＝－5点／個、但し5個以上の場合は－40点）

なお、期末試験で同じ三択問題が出題される。

問2. 記述式問題（講義内容に即した文章が記述されていれば合格）

(1) 今回の講義内容で理解できた点を具体的に説明する文章を1文（後半からは2文）以上で述べよ。（配点**15点**＋ボーナス点）

(2) 今回の講義で難しかった点・疑問に思った点を具体的に説明する文章を1文（後半からは2文）以上で述べよ。（配点**15点**＋ボーナス点）

(注) その回の講義と無関係な内容や抽象的な表現は、講義に参加していないとみなされる。

未記入の場合も同様である。ここで言う文章とは、主語と述語が含まれるものを指し、単語の羅列（箇条書き等）は文章とみなさい（“AAAを取るために”を参照）。

問3. 感想（配点 **10点**＋ボーナス）

自由記述欄であり、文章（絵を付け加えてもよい）が書かれていれば、点数がもらえる。内容如何によって、更にボーナス点もらえる。

# 小テスト提出におけるその他の注意

- (1) 誤字、脱字、用法を間違えた単語の使用、意味不明の文章は、減点となる。
- (2) 代筆・盗作および借用文が発覚した場合、卑劣な行為としてペナルティーを科す（その会を含めた3回を欠席扱いとする）。
- (3) 各文章は、教員に向けて書く文章であることを十分認識して表現に注意。
- (4) 礼儀をわきまえない無教養で卑劣な表現を使用した場合、本講義の受講を辞退してもらう。
- (5) 小テストは、受講状況の評価対象であり、教員に向けた提出物である。提出物中に書かれている『メモ書き』は、汚損答案とみなし、汚損箇所をそれぞれ－5点とする。メモは、ノートに取る。
- (6) 受講者多数につき、氏名、学籍番号、日付の未記入は、および提出先ミスは、減点あるいは採点対象外となる。

# 学期末テストのスタイル

- 基本的には、3つの部分で構成されている
- **記述問題**：あるテーマ（1月に告知）に関して400字以上論述する（配点40点+ $\alpha$ ：テーマに即さない記述は採点対象外である。また、テーマに即してかつ400字を超える記述に関しては、ボーナスポイントが与えられる）。
- **三択問題**：講義の中で出てきた内容に関して、50問（配点50点）出題される。49問は小テスト問題がそのまま出題される。ノート（返却された小テストを張り付けたもの、他人のコピーは不可）の持ち込みが可なので、間違えた場合は、1問につき10点減点される。（配点：50点～-500点）
- **感想文**：テーマ

**“本講義で、印象に残った事項を1つ選び、200字以上で記述せよ。”**

（配点 10点+ $\alpha$ ）：200字以上書いた場合は、ボーナスポイントが与えられる。逆に、200字未満であったり、テーマと関連しない内容は0点。

**第1・3問は、盗作（インターネットや友人等）とみなされた場合0点となる。**

# 出席点の計算式

## ★小テストの評価：

AAA=100, AA+=95, AA=90, A+=85, A=80

B=70, C=60, D=0; マイナスは、-5点を表す。(例、C--=50点)

## ★小テストの平均点：各回の点数を合計して、開講数で割る。

初回を、ボーナス回として取り扱い、分母から1を引く。

(小テスト1+小テスト2・・・+小テスト14) / (14-1) = 小テスト平均点

A君 平均75点の人が3回休むと  $75 \times 11 \text{回} / 13 \text{回} = 63.4$ となる。

Bさん 平均75点の人が全出席なら  $75 \times 14 \text{回} / 13 \text{回} = 80.8$ となる。

また、所定の手続きを踏んだ欠席届は、開講数から引き算する（分母が小さくなる）。

なお、2重聴講となる欠席届（集中講義への出席）は、欠席として扱う。

欠席届3回の体育会系所属のCさん

Cさん 平均75点で欠席届3なら  $75 \times 11 \text{回} / 10 \text{回} = 82.5$ となる。

# 総合評価の計算式(例)

小テストの平均点 \* 0.65 + 期末テスト \* 0.8 \* 0.35 = 成績

A君  $63.4 * 0.65 + 105 * \underline{0.8} * 0.35 = 41.2 + 29.4 = 70.6$  『良』

( $63.4 * 0.65 + 75 * \underline{0.8} * 0.35 = 41.2 + 21.0 = 62.2$  『可』)

Bさん  $80.8 * 0.65 + 105 * \underline{0.8} * 0.35 = 52.5 + 29.4 = 81.9$  『優』 現実

Cさん  $82.5 * 0.65 + 105 * \underline{0.8} * 0.35 = 53.6 + 29.4 = 83.0$  『優』

( $82.5 * 0.65 + 75 * \underline{0.8} * 0.35 = 53.6 + 21.0 = 74.6$  『良』)

期末テストはボーナスポイントで、最高点が変わる (2014年度は170点が最高得点)。

『秀 (総合点が90点以上)』の人数が全体の5%程度になるように、下線部の係数を微調整する (2011年度は, 0.82で調整し)。

# 単位取得および成績評価

- 2/3ルール

3分の2をクリアーすることが絶対条件となる。

クリアーできると“可”がもらえる。全講義回数から考えて、5回欠席した場合は、学則にある欠格条件を満たすこととなり、自動的に“不可”となる。そのような場合は、学期途中でも不可であることを受講者に告げ、それ以降の受講をお断りする。

“良”、“優”に関しては、出席点と期末試験の状況を考慮して適宜割り振っていく。

“優”のカテゴリーに分類された学生の中で、上位5%（全受講者数の5%：100人なら5人、150人なら8人程度）が“秀”となる。

本講義では、過去の成績分布を公開している。

基本的に、平均78点前後の2項分布を示す。